

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和2年(2020)

皇紀2680年

## 新型コロナ禍熄滅退散祈願

大宮八幡祭り(秋の大祭)号【第118号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

再度新型コロナ禍熄滅退散を  
大宮八幡祭りに祈る …… 2頁

大宮八幡祭り(秋の大祭)のご案内 …… 3頁

十五夜の神遊び …… 4頁

杜の話題 …… 5～8頁

大宮八幡の杜 秋も深まり …… 9頁

初宮詣芳名・どんぐり通信 …… 10・11頁

大宮八幡祭り社頭風景 …… 12頁



笹の輪潜り神事

# 再度新型コロナウイルス禍熄滅退散を大宮八幡祭りに祈る

## 大宮八幡宮宮司 鎌田 紀彦

今年は、梅雨前線が停滞して、大雨が熊本地方を始め九州の各地や岐阜、北陸地方まで甚大な豪雨水害が起き、罹災された多くの方々には、先ずもってお見舞いを申し上げます。

東京地方は長いうっとうしい梅雨空が続き、やっと8月に入り梅雨明けとともに、猛暑となり、蝉しぐれも激しくなってきました。

昨年12月に中国の武漢を発生源とする新型コロナウイルス感染症が流行し始めて以来、地球的規模で拡大し続けております。

我が国でも東京都に於いて3月末頃より感染者が急増し始め、都知事より「感染爆発の重大局面」であり「医療崩壊」に通ずるとの強い危機感を示され、4月7日夜には首相より「緊急事態宣言」が、一都六府県を対象に発令され、不要不急の外出の自粛要請がありました。やがて全都道府県が対象となり、更に「緊急事態宣言」が延長され、徐々に感染者数が減少し始め、5月末に解除となり、一旦落ち着きを感じられましたが、今また国民の生活が元に戻るに従い、特に東京を中心に3月～4月よりも感染者の急増の傾向にあります。



この様な中  
にあつて当宮  
に於いては、  
3月11日より  
毎日の朝御饗

祭に於いて終熄を祈願し続けております。不要不急の外出が禁じられていた時も家族づれでお参りに来られる方々が多く、神社はお参りし、お祈りされる処でもありますので、門を閉じる訳にもいかず、閉門時間を一時間早くして、参拝場所を外拝殿石階段下に設え、ソーシャルディスタンスをとり、お賽銭箱の幅を広げました。雨天や梅雨時にはテントを張りましたが、それが今では猛暑の日除けとなっております。

授与所や祈願受付所もお守り類の見本のみ外に置き、アクリルパーティションで間仕切り、下方の開口部より受け渡しを行うなど、絶えず除菌消毒をしながら参拝者に対応しております。

5月3日～5日は、わかば祭り（春の大祭）でありましたが、恒例の稚児行列を始め神賑行事が殆ど中止となりましたが、祭典だけは神職のみで斎行し、5日の当日祭（尚武祭）は、役員総代、神社関係者のみ人数を制限しての参列を頂き、皇室を中心とする我が国の隆昌と世界の平和、五穀豊穰を祈念し、併せて新型コロナウイルス感染症拡大終熄祈願祭を斎行致しました。

尚、5月1日より若葉燃ゆる新緑の境内産の黒竹の笹の葉を用いた笹の輪を設え（実は茅葺は芽吹き始めて入手出来ない為、ササのサは神々を現わし、サツキ（5月）サオトメ（早乙女）サナエ（早苗）、サクラ（神坐）、サオリ（神降り）、サノボ

リ（神上り）等）武塔神（須佐雄の神）と蘇民将来の故事に神倣い、茅の輪に肖って「蘇民将来の子孫也」と心中で唱え「疫病退散」「新型コロナウイルス禍熄滅」を祈りつつ、前の方と充分間隔を取り乍ら「笹の輪」を潜りご神前へ進まれるように案内をいたしました。

（このことは神社新報第3497号で取り上げて頂き、神社写真時報にも掲載されました）  
6月15日例年の大祓の茅の輪の設えに併せて笹の輪も新しく設え直しをいたしました。

神門前広場に大前に向い、手前に茅の輪、その奥に笹の輪と、正面から見ると、大きな輪、その奥に小さな輪とコントラストもよく見栄えがしておりました。参拝の方々にも30日までには二つの輪を潜って頂きました。



6月30日夏越しの大祓でも茅の輪潜り神事の時、この二つの輪を左右左と三度潜って大前に進み大祓修了奉告祭を執り行いました。そうして、7月末には再度造り替えました。

8月2日午後4時より当宮に於て、東京都氏子青年協議会主催に拠る新型コロナウイルス感染症早期終熄祈願祭が斎行されました。

「緊急事態宣言」の解除より東京都はこの処、うなぎ登りに陽性（感染）者が増加の一途をたどっている時、將に時機を得た祈願祭であり、ご来賓に石原伸晃衆議院議員様、小野貴嗣東京都神社庁長様、大鳥居良人東京都神道青年会会長様のご参列のもと、各単体会代表の方々とともに「大祓の詞」一巻を宮司、祭員等と奉唱させて頂きました。各単体会の皆様が氏神様も一体となつて、赤誠の真心からの願いを必ずやご嘉納下さり、一日も一刻も早く終熄する日の来ることを祈るばかりでございます。

大宮八幡祭り（秋の大祭）11月14日宵宮祭、15日例祭併せて氏子奉幣祭、特別新型コロナウイルス禍熄滅退散祈願IIが近づいて参りました。

新型コロナウイルスの大禍により、本年度の神輿合同宮入りが中止となり、殆どの神賑行事も中止となりましたが、神社本庁の献幣使参向を仰ぎ、わかば祭り（春の大祭）当日祭同様に、神職並びに責任役員・総代ら神社関係者のみ人数を制限してのご参列を頂き、厳肅に肅々と斎行させて頂くこととなりました。

何卒今般の諸事情をご賢察ご理解下さいますようお願い致し、一日も速いコロナ大禍の終熄退散を祈り、併せて医療関係に携わっておられる方々や行政の方々にも感謝の意を表し、又亡くなられた方々に哀悼の誠を捧げお悔やみ申し上げ、罹患された方々の一日も速い回復を祈り、又疲弊しつつある国民の経済力の復興を願うとともに、氏子・崇敬者の皆様のご多幸とご健勝を、衷心よりお祈り申し上げます。

（令和2年8月9日記）

# 大宮八幡祭り(秋の大祭)

## 例祭併せて氏子奉幣祭 辞別新型コロナ禍熄滅退散祈願



春先に発生した新型コロナウイルス感染症はたちまちのうちに世界中を席巻し、日本も例外ではなく、日常生活にも大きな制約が伴うようになっております。5月5日の尚武祭を中心とするわかば祭り

(春の大祭)では大神様にコロナ禍の終熄をも祈願して斎行されました。その後、国の緊急事態宣言は解除されたものの、状況は感染拡大の方向に転じ、未だ懸念は払拭されません。

このような中、神輿合同宮入りを始め各種神賑行事は一部を除き中止のやむなきに至りましたが、地域の氏子、崇敬者の皆様が幾世代にもわたって守り神、氏神として崇敬の心を寄せられてきた大宮八幡宮の秋の大祭の神事は、責任役員・総代ほか神社関係者が氏子の皆様を代表して参列され、例年と変わることなく厳肅に斎行されます。

4日には宵宮祭、15日午前10時には神社本庁よりの献幣使の参向を仰ぎ例祭、併せて氏子奉幣祭が斎行されます。式次第は先ず開扉、献饌・奉茶、宮司祝詞奏上と続き、次いで、全国8万の神社を包括する神社本庁よりの幣帛の献幣に続き、献幣使の祭詞奏上、次いで、大宮・方南南・方南北・和田東・和田

西・松ノ木の氏子6地区より寄せられた赤誠こもるご浄財を氏子幣としてご神前に奉供して、氏子奉幣使(祭礼委員長)が氏子祈願詞を奏上され、先ず皇室と国家の安泰、五穀豊穰を感謝し、氏子崇敬者のご多幸とご繁栄への祈りが捧げられ、新型コロナウイルスの熄滅退散が祈願されます。



15日午後、小笠原宗家による弓の神事  
三三九手挟式が新型コロナウイルス禍の終熄を祈念して奉納されます。期間中神門内北側の回廊にて大宮八幡宮みどりの会主催の盆栽展が開催されます。清涼殿ロビーでは9日より22日まで重陽の節句菊披綿飾りが展示されます。

### 小笠原流三三九手挟式

三三九手挟式は、武家において正月4日の弓始に行われた厳格な弓の儀式で、当宮では秋の大祭に草鹿式と隔年で奉納されています。一辺の長さが9寸の板の裏側に3寸毎に鋸目を入れ、これを的として串に挟んだことから三三九の挟み物と呼ばれました。



### 大宮八幡祭り期間中の祭事

菊被綿神事	9月8日夕刻〜翌朝	中止
神輿神霊入れ祭	9月14日	中止
各神幸所清祓・宮司巡拝	9月15日	中止
宵宮祭	9月15日	中止
例祭・氏子奉幣祭	9月15日	中止
奉茶(裏千家) (後)東京第6西支部	9月15日	中止
第35回 神輿合同宮入り	9月15日	中止
神輿神霊返し祭	9月15日	中止
終了奉告祭(直会の儀)	9月15日	中止
若宮八幡神社	9月20日	例祭
白幡宮	9月20日	例祭
神賑行事	9月6日	中止
弓道場振武殿神殿祭	9月7日	中止
秋の弓道奉納射会	9月7日	中止
奉納書画行燈	9月7日	中止
献燈提灯	9月7日	中止
第22回 菊被綿飾り	9月9日	中止
第42回 献華いけばな小原流展	9月9日	中止
盆栽展示会	9月14日	中止
大宮幼稚園 園児民謡踊り	9月14日	中止
方南エイサー踊り	9月14日	中止
杉並太鼓	9月14日	中止
大宮幼稚園 園児神輿宮入り	9月15日	中止
スカウトバザー	9月15日	中止
町内神輿渡御・社参(昼間)	9月15日	中止
野点茶会(裏千家) (後)東京第6西支部	9月15日	中止
スカウト神輿宮入り	9月15日	中止
高井戸囃子	9月15日	中止
舞楽(俊成雅楽会)	9月15日	中止
小笠原流三三九手挟式	9月15日	中止
第7回フォトコンテスト作品展	9月15日	中止
露店	11月23日	中止
第20回 十五夜の神遊び(仲秋祭)	10月3日	中止

### 第22回 重陽の節句

菊被綿きくのせきわた



重陽とは陽数の極みである9が重なるという意で、重陽の節句と言い、又この季節に咲く花が菊なので、菊の節句とも言います。菊は、古代中国では仙境に咲く花で破邪延寿の効能があると信じられ、平安時代前期の宇多天皇の御代に「菊被綿」として宮中行事に取り入れられ、幕末まで行われていました。菊被綿は重陽の前日の9月8日に、三色の菊の花に白、赤、黄の真綿を被せて菊の香りを持ち、9日早朝朝露で湿った真綿



を顔にあてて若返ろうというもので、当時女性の贈答に用いられました。(紫式部日記)当宮では、菊被綿神事を8日夕刻に斎行し、9日の朝御饗祭で神前にお供えます。菊被綿飾りは9月9日より22日まで清涼殿で公開しています。

### 第20回 十五夜の神遊び

月の音舞台つきのおとぶたい

旧暦8月15日(本年は10月1日)の十五夜に合わせて、10月3日に第20回十五夜の神遊びが斎行されます。

### 献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭り(秋の大祭)の期間中多くの参拝者をお迎えするに当たり、皆様方のお名前(ご社名)を入れた献燈提灯を掲出し、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂きたく存じております。つきましては、左記によりご献燈賜りたく宜しくお願い申し上げます。

記

掲出期間 9月7日から10月14日まで

初穂料 一燈一〇、〇〇〇円

申込締切 9月6日(郵送は5日必着)

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



※複数燈でも承ります



この十五夜の神遊びは平成13年より催されており、夕刻、陪観の人々によって約一、三〇〇基の竹燈籠に火が点され、仲秋祭が斎行されます。その後

神楽殿にて雅楽や神楽舞の奉奏に続いて、月の音舞台となります。演奏は本年も広く国内外で注目を集める尺八奏者き乃はち氏です。き乃はち氏の尺八の調べは、名月に照らされながら、鳴虫の音とともに鎮守の杜に響き渡り、深く閑かに心に染み渡ります。また、清涼殿ではこの日に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味いただく月見の宴も催されます。



### 「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台終了後に(午後8時頃より)開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

定員になり次第締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。  
※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音舞台」は行われます。  
お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮清涼殿まで

03(3312)7515

### 【月見御膳】◎御神酒付

お人様 5,900円(税込)

『月の音舞台陪観指定席』含む

限定100名



尚「月見の宴」は状況により中止になることがあります。当宮HP等でご確認ください。大宮八幡宮清涼殿までお問い合わせ下さい。

# 杜の話題

## わかば祭り(春の大祭)斎行

今年の当宮わかば祭り(春の大祭)は、新型コロナウイルス感染症終熄をも祈念して祭儀が厳粛に斎行されました。先ず、4月29日には、昭和祭が斎行されました。次いで1日には、躑躅育木祭並びに皐月朔旦祭。3日は、春の大祭第一日ノ儀が斎行されました。



ノ儀が斎行されました。感染症を警戒して恒例の稚児行列は残念ながら中止となりましたが、ご祭儀の中で、毎年古武道の武技を奉納されている武田流傳黒坂派波心会会長、師範黒坂信昭師による、新型コロナウイルス感染症

## 新型コロナウイルス禍熄滅祈願を 疫病退散の笹の輪潜り神事も

当宮では3月11日より毎日の朝御饌祭、1日朔旦祭、15日月次祭、また恒例祭にも新型コロナウイルス感染症終熄祈願を併せて行って参りました。わかば祭り(春の大祭)の諸祭においても、新型コロナウイルス禍熄滅祈願詞を奏上、感染症の終熄を祈って参りました。

また5月1日より神門前表参道にて「笹(ささ)の輪潜り神事」を実施。武塔神の教えにより一族が茅の輪をつけて疫病を免れた蘇民将来の故事に倣い、境内の笹竹を用いて「茅の輪」にあやかり、「笹の輪」を奉製。因みに、笹のサはサクラ(神坐)、サナエ(早苗)のように神々を表す言葉。参拝者は各自「蘇民将来の子孫なり」と唱えながら笹の輪を潜り、「疫病退散」「新型コロナウイルス禍熄滅」を祈念して神前に進んでいます。



症熄滅を祈念する「四方祓、神前清めの太刀」が奉納されました。祭典終了後には、神楽殿にて黒坂師範による四方祓、次いで北辰一刀流宗家八世玄武館館長小西真円一之師と一門による「五行之形」「抜刀術」が奉納されました。北辰一刀流玄武館は、50年ほど前、当宮の春の大祭に少年剣道大会が奉納されていきました。

4日は、春の大祭第二日ノ儀を斎行。午後には、植樹祭(献木式)が当宮みどりの会主催により斎行され、祭典後、献木奉納者の方々に観葉植物が授与されました。最終日の5日は、春の大祭当日祭(尚武祭)



併せ感染症拡大終熄祈願祭が宮司以下神職並びに責任役員ら関係者のみ人数を制限して斎行され、皇室国家の安泰・五穀豊穰、氏子崇敬者の繁栄と新型コロナウイルス感染症の熄滅が祈念されました。

## 神功皇后祭 本年より恒例祭に

昨年は当宮御祭神神功皇后様が神上がられてより一七五〇年に当たり神功皇后壹千七百五十年式年大祭を斎行致しましたが、本年より恒例祭として祭典を執行。去る6月3日、神功皇后祭が宮司以下祭員奉仕により斎行されました。

神功皇后様は八幡大神と讃えられる応神天皇様を身籠もつたまま三韓を平定され、無事に九州に戻られてから応神天皇様をお産みになったことから、安産・子育てのご神徳が広く仰がれています。

おふたりへの敬仰は聖母大神(聖母大菩薩・神功皇后)と八幡大神(八幡大菩薩・応神天皇)との母子信仰(聖母信仰)子授・安産・子育て神として当宮に古来より受け継がれてまいりましたが、神功皇后一七五〇年を機に特に摂政宮として69年間、宝祚を践まれた神功皇后の御事蹟を称え、愈愈の御神威の発揚と御加護を願い、恒例祭として、ご奉仕致します。



### 古代蓮・大賀蓮咲く

大賀蓮は、古代の蓮で、昭和26年千葉県千葉市検見川にある東京大学検見川厚生農場内の落合遺跡の地中から実が発掘され、植物学者の大賀一郎氏の手により古代の蓮がよみがえりました。昨年、天皇陛下御即位 御大典の奉祝記念として、箱根植木(株)様より5鉢の奉納があり、栽培が難しいといわれていますが、鮮やかな大輪が開花しました。



本年も6月18日より7月9日まで、一般社団法人国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」巡回展の入選作品が神門北翼廊ブルーボードにて展示されました。大宮幼稚園の園児も銀賞を受賞しています。

### 国旗協会 「国旗のある自由画コンクール」 金銀賞入選作品展



**夏越の大祓神事**  
水無月夏越の大祓神事が6月30日、生憎の雨の中、斎行されました。本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、30日当日の三密を避けるため、一般参列を希望する方々には、27日より事前受付を始め、神職の説明に従って、各自切麻と形代(人形)に依り自祓を行い、大麻でのお祓いを受けて、形代を唐櫃に納め、めいめい間隔を保ちながら茅の輪と笹の輪を潜りました。当日は午後4時より神門前広場の茅の輪前にて役員総代、敬神婦人会りんどう会役員等が参列して、まず、宮司の先導に合わせ、祭員参列者全員大祓詞の奉唱、次いで切麻と形代にて自祓の儀の後、天と地が祓われ、八針の神事が行われました。次いで左右左と茅の輪並びに笹の

輪を三度潜り社殿へと進み、大祓修了奉告並に大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭を斎行。神前には、6月20日から28日まで開かれた大宮八幡塾主催の水無月書写会(大祓詞書写会)で、りんどう会はじめ氏子崇敬者より117巻の浄書の大祓詞が奉納されました。

### 平安の七夕第22回乞巧奠と 平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事

平安朝の七夕を再現した乞巧奠が、7月1日より15日まで清涼殿ロビーにて開催されました。



りんどう会はじめ氏子崇敬者より117巻の浄書の大祓詞が奉納されました。





乞巧奠は古代中国の牽牛織女の星祭り伝説とわが国の棚機つ女の伝説が結び付いた行事で、当宮では上皇陛下御即位十年を奉祝して、平成11年より行われています。7日の夕刻には社殿にて七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）が斎行され、次

いで神門前に設けられた梶の葉に七夕人形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした平成の七夕大宮八幡乞巧潜りを宮司以下祭員、参列員等が左右と三度潜る乞巧潜り神事と笹の輪潜り神事を併せて行いました。その後清涼殿ロビーに進み乞巧奠に拝礼。また

本年は、神門に6基の七夕葉玉飾りが掲出され、神楽殿前広場には笹竹8本を円形状に各々斜めに立て、七夕短冊（願文）を笹に結び易くしました。色取々に短冊を準備しましたので、各々願い事を書き、笹竹に吊るしている親子たちが多々見受けられました。



### 就任奉告

7月14日、京王電鉄株式会社広報部、片山和也広報部長が長谷川和憲前部長（開発事業本部開発推進部長）、林健太郎広報部企画・環境担当課長とともに



来宮されました。同日、杉並税務署、佐々木紀章新署長が、上園義久副所長とともに着任のご挨拶に来宮されました。



### 第20回納涼大宮天神こどもまつり 「杜のひびきin おおみや」



大宮八幡の夏の風物詩「第20回納涼大宮天神こどもまつり」が7月24・25日の両日、行われました。24日は午後5時30分より宵宮祭が斎行され、大宮幼稚園をは



じめ近隣の小中学校、一般の有志の方々より寄せられた349点の書画、行燈293基の献灯式が行われ、参道・境内を照らしました。25日には心配された夕立もなく午後5時30分より大宮天神祭が斎行され、午後6時30分より「杜のひびきinおおみや」（時間をはずした日の神事）として、和太鼓の響道宴氏による新型コロナウイルス感染症退散祈念の奉納演奏。迫力のある和太鼓（阿門）と剣伎舞（かむぬ）のコーポレーションが鎮守の杜に鳴り響きました。



### 多摩清水社例祭

8月1日(水の日)、葉月朔旦祭に続いて**多摩清水社(水神祭)**が斎行されました。俳人阿波野青歌の句碑には、「広き野に霊の清水のあるところ」と「多摩の大宮」の鎮まる武蔵野を想望して詠まれ、今なお御神水(波動水)が湧き出ています。水に感謝を。



### 都氏子青年協議会主催 新型コロナウイルス感染症早期終熄祈願

8月2日午後4時より、東京都氏子青年協議会主催による**新型コロナウイルス感染症早期終熄祈願祭**が斎行されました。来賓に東京都神社庁小野貴嗣庁長、石原伸晃衆議院議員を迎え、東京都神道青年会大鳥居良人会長、東京都氏子青年協議会傘下の単位会11の代表等計28名が参列、鎌田宮司の祝詞奏上の後、宮司以下、祭員、参列員全員で大祓詞一卷を奉唱。感染症の早期終熄を祈願しました。なお、この模様は神社関係者にライブ配信されました。



### 氏子青年会だより

8月2日、東京都氏子青年協議会主催による新型コロナウイルス感染症早期終熄祈願祭が当宮にて斎行され、同会会長でもある井川会長はじめ野口弘行、伊藤敏行両会員が参列しました。

### 第37回戦没者慰霊祭

終戦記念日である8月15日、氏子区域より出征された英霊をお慰めする**第37回戦没者慰霊祭**が清涼殿特設斎場にて斎行されました。今年も全国戦没者追討式に合わせ正午の時報を合図に黙祷、次いで慰霊祭となり当宮と兼務社の氏子の英霊329柱に感謝し、慰霊と追悼の誠が捧げられました。



### 水無月書写会

大宮八幡塾**水無月書写会**が6月20日から28日まで神社と共催で行われました。30日の大祓神事の後の大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭には、117巻の大祓詞等が神前に奉納されました。また、大宮幼稚園の園児等手作の飾りが会員の奉仕によって丁寧に小笹に飾り付けられ、「福笹」として約300体が大祓参列の方に授与されました。当会では随時会員を募集しております。ご入会希望の方はお気軽に事務局にお申し出下さい。



### りんどう会だより

当会では随時会員を募集しております。ご入会希望の方はお気軽に事務局にお申し出下さい。

### 戌の日詣りは

聖母大神・子育て八幡さまの当宮で**安産祈願祭**を！

※戌の日以外でも随時お受けしております  
ご祈願の方には大宮八幡息長帯(安産腹帯)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様  
が健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



### 戌の日の早見表

(令和2年9月〜令和3年1月)

9月	4日(金)	10日(土)	16日(水)	22日(木)	28日(月)
10月	10日(土)	16日(水)	22日(木)	28日(月)	
11月	3日(祝火)	15日(日)	27日(金)		
12月	9日(水)	21日(月)			
1月	2日(土)	14日(木)	26日(火)		

は大安の日です



# 大宮八幡の杜 秋も深まり

## 第42回 杉並大宮菊展

10月31日より11月23日まで杉並大宮菊の会の主催による**杉並大宮菊展**が開催されます。杉並区内外在住の菊の愛好家の方々が丹精込めて作られた様々な菊の大輪が境内を彩ります。特に七五三文字菊は当宮独特のもので、たくさんの方の七五三詣でのご家族がその前で写真を撮る光景が見られます。



## 神符奉戴式を斎行

11月初旬には、**神宮大麻頒布式**並びに**氏神社 神符等奉戴式**が斎行されます。ご神前において大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御霊遷しをして、神宮大麻と併せて頒布始めの由を大神様に御奉告いたします。各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいお札をお祀りして、令和3年の新春を清々しく迎えましょう。



## 新嘗祭

昨年11月14日、今上陛下が初めての**新嘗**を神々と共に相嘗め遊ばす御一代御一度の**大嘗宮**の儀が行われ、当宮でも同日、大嘗祭当日祭を厳肅に斎行致しました。通年にもどり、11月23日（勤労感謝の日）は、新穀を神前にお供えし、秋の収穫を感謝する**新嘗祭**が斎行されます。五穀豊穡を祈る春の**祈年祭**（春の大祭）と対をなすお祭り、宮中を始め全国津々浦々の神社で斎行されます。当宮では大宮幼稚園の稲田で園児たちが丹精込めて植えてきた稲穂をはじめ、氏子・崇敬者や企業よりたくさんのお新穀・神酒、野菜・果物などが拝殿内中央階段の左右に**庭積机**代物として奉納されます。



庭積机代物

## 第30回 杉並花笠祭り

12月12日（土）、恒例の初冬の風物詩である第30回**杉並花笠祭り**が、サミット株式会社、(株)サミットコムと当宮の共催、山形県などの後援で開催されます。当日はまず杉並花笠祭り開催奉告祭を斎行し、その後、御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では芋煮や御神酒（六歌仙）が無料で振る舞われ、山形県特産の農作物などの露店が立ち並び、約3万人を超える参拝者で賑わいます。



### 令和3辛丑年

12月1日より授与所にて受付開始

## 「新春初祈願祭」のご案内

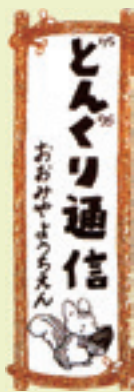
当宮では、令和3辛丑年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする**新春初祈願祭**を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕致します。また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの祈願祭のご予約も承っております。年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いで八幡大神様の御神徳を戴かれ、新しい年が幸多き更なる発展の年となりますよう祈願祭を奉仕致します。

# 初宮詣芳名 (敬称略)

(令和2年3月21日～7月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 上野未来 南杏
- 田中佑齐 田中高大
- 野村かえで 粟津原果依
- 國岡省吾 渡辺權生
- 鈴木伶美 海老澤樹
- 飯尾颯太 松井伯燈
- 宮前楓生 平賀愛理
- 川崎日葵 市川椿
- 古森大稀 阿部奏海
- 牛嶋千賀 生島空多
- 西口響 加藤凱
- 高橋新 大澤史
- 大関悠李 柳沼凜
- 山口楓加 津田芭
- 林優磨 石井みのり
- 栗山瑚子 鈴木陽奈未
- 石川莉愛 浅地奏汰
- 太田倫 吉田璃子
- 小川湊 小谷彩月
- 山口楓翔 赤井柊太
- 麥生田椿 菅沼梨紗
- 深谷莉々華 目澤心陽
- 大城実璃 塚本雫月
- 森終 中村友俐
- 吉山大翔 鈴木郷介
- 北浦風 岩崎千隼
- 山田蒼維 伊集院明音
- 太田楷人 岩根功
- 中條琥船 柳田桃歌
- 岡部ちよ 五十嵐心春
- 菊池慧至 腰越楓大
- 西尾かなで 半田ゆり奈
- 小畑葉慈 横森空斗
- 中村瑛 松三碧斗
- 篠原彩那 那須音巴
- 柴田悠灯 佐久間咲綺
- 花見和奏 高橋由宇
- 花見祐奏 長倉楓香
- 倉田晴翔 津田絃葉
- 根立蒼空 香田李奈
- 中里粹千 高松聖良
- 國分和歌 兼田一花
- 由井孝多朗 堀江香帆
- 岡本琉利 天野杏南
- 長澤英 長瀬心桜
- 真嶋蒼 魚崎紗令
- 児玉匠史 木村穂稀
- 土方碧人 田中巴菜
- 吉川泰史 中里環乃
- 関口翔湧 安藤凛香
- 星文花 新井杏依
- 田村晴 金子朔真
- 小林千桜 平井さくら
- 小林千桜 佐川蓮和
- 小澤さくら 小澤さくら
- 江川泰玄 安藤大翔
- 和久田行橙 柴垣歩夢
- 赤堀壯志 山本陽菜汰
- 山本陽菜汰 山内裕翔
- 山内結翔 山内結翔
- 山本有芽 山本有芽
- ボテ口稲葉咲 室谷長孝
- 安藤權 室谷長孝
- 長森陽大 長森陽大
- 安藤權 室谷長孝
- 室谷長孝 室谷長孝
- 山本有芽 山本有芽
- 山内結翔 山内結翔
- 山内裕翔 山内裕翔
- 谷川莉碧 谷川莉碧
- 宮嶋留輝 宮嶋留輝
- 原佑久 原佑久
- 橋本直 橋本直
- 大六野史弥 大六野史弥
- 吉村伊織 吉村伊織
- 渡辺理斗 渡辺理斗
- 千葉はる香 千葉はる香
- 小林柚葵 渡部いちか
- 白井光 小林樹季
- 中山陽菜 茨田佑
- 中澤雅 川上惺雅
- 西上明花 茂原仁湖
- 岩野圭桃 墓ヶ口工
- 菊地季桜 渡辺快
- 松本碧柝 上原翔
- 栗村悠正 高橋彩維
- 栗村友理 小松怜依
- 田村柚季 雨宮百香
- 八角絵菜 小坂漣
- 堀口倫生 佐藤凛和
- 丸山桜空 高橋芽彩
- 井芹映麻 小林蒼
- 木村心衷 鶴巻楓
- 松井皇樹 村本圭
- 來山桜子 内山雄飛
- 松元智輝 小池昂
- 魚崎紗令 音無創賢
- 木村穂稀 樋口月栞
- 和田陽聖 東莉津
- 高橋雅宏 齋藤梓文
- 野田紗花 中川楓
- 熊木菜花 田島叶愛
- 佐久間一真 山田野乃子
- 高寺真弓子 馬路公梓
- 辻充生 加藤芳長
- 篠原優奈 坂巻依智木
- 近藤衣織 石原朱
- 川瀬柚菜 行武那桜
- 大村匠 高岩莉央
- 今野陽喜 飯田倅生
- 沸木敬 長門石光里
- 小林杏珠 福島彩心
- 石村壯 藤田透子
- 土屋昌慧 小林史
- 重野琴羽 坂田望
- 藤井海成 石田茉花
- 丹治菜ノ羽 吉野紗和
- 黒澤柚葉 齊木翼
- 澤田聖司 佐川太陽
- 及川葵結 渡辺理糸
- 中村春日 長田陽彩
- 本多玄英



## 短い学期を終えて



当園の大門には「門被り」の松が、今年も「門被り」のさくらが、大木となつて、毎年きれいな花を咲かせてくれます。近年は温暖化の影響があるので、4月の入園式には、桜吹雪になるのか、すっかり散ってしまうのか、ハラハラドキドキするのですが、今年はそれどころではなく、新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」が出され、急遽4月は臨時休園、入園式は延期になりましたが、5月を待つことになりましたが、またさらに延長となり、入園式を迎えたのは6月5日になりました。子どもたちは夏服で入園奉告祭に出席、式は密を避けて御神殿前に椅子を並べて外で行いました。創立70年目を迎える記念の入園式でもあり、違った意味で心に残る入園式となりました。

保育は、翌週から3グループに分かれた分散登園となり、送迎は通園バスを使わず保護者の方々に各自徒歩での通園をお願いしました。感染症対策として、グループの入れ替えごとに椅子やテーブル、手すりなどの消毒に日々専念して、緊張感と体力の維持に懸命となりました。そんな中で、進級した子どもたちは久しぶりの幼稚園で、お友だちと遊んだり、先生とお話をしたりして短い保育時間を楽しんで、私たち保育者も背丈が大きくなつた子どもたちと過ごせる喜びを味わいました。昨年の1学期の終わり頃は、梅雨明けを待ちながら、残すは年長さんの「お泊り保育」と「天神祭」そして卒園生の「白州サマーキャンプ」へと一つの行事に意気込んでいた時期でしたが、まさか密になるからと・・・は中止！・・・も中止！と保育の根幹を揺るがす事態が発生するとは想像もつきませんでした。日々の当たり前の生活が、どんなにありがたいか、尊いかなを実感させられる毎日でしたが、気が付けば短い1学期も終わり、振り返ってみると、混乱している私たち保育者の傍らで子どもたちは新しい生活を本当によく頑張ってくれました。玄関での手指の消毒やマスクの着用、密にならないように過ごす工夫などを素直に聞いてよく実行してくれました。

そして、夏休み中も遠くに出かける事もなく、2学期がスタートして、また消毒の日々となりますが、今年なりの光り輝く保育であるように、保育者も子どもたちも元気いっぱい過ごしたいと思えます。

副園長 草村敏子

- 大西紬生 中川みお
- 大亦莉奈 田代明生
- 荒井一乃 権田大輝
- 千葉芽生 黒田秀弥
- 有田和徳 山室里莉
- 有田優徳 大野美詞
- 重岡拓実 設楽莉葉
- 荒木健太郎 肥後歩東
- 佐藤杷奈 石田花音
- 山下結菜 澤杏莉
- 新谷彩人 高木勇吹
- 袴田充希 昌子旺生
- 高相こほる 中馬快斗
- 山崎純史 池沢柊哉
- 門倉賢伸 池沢柚香
- 野口凜々 望月創瑛
- 高橋玄弥 伊東暖奈
- 大貫陽丸 後藤結人
- 安藤宇希人 高橋晃士
- 中嶋紗菜 那須紡久
- 渋谷紗奈 藤本吹花
- 手嶋凌久 秋葉都月
- 石澤佑基 田悟慶人
- 橋本和樹 藤井温仁
- 鈴木音葵華 清川瑛翔
- 小野田絢仁 丸山千紗
- 増田瑛舞 竹野愛織
- 長山夏芽 宇津木歩
- 西口芽依 ヌルスキー由真
- 松平悠里 内藤晃太
- 須合佑 巽ゆき芽
- 宮澤佑理 仲宗根心音
- 大伴咲太郎 上原ゆりあ
- 野原理世 西野遙陽
- 館山律人 松井宏輔
- 吉田葵 川瀬倅
- 吉田心人 北林由
- 大和悠毅 戸谷郁仁
- 吉尾一花 山本零士
- 小出光莉 佐土原瑛
- 谷川葉音 岡崎心春
- 須田龍ノ介 鈴木詩
- 千葉袖季 石田高規
- 藤田虎佑 澤湮空
- 田中恵唯 山中然
- 徳重侑志 北川嵩也
- 前田淳斗 松下瑠杏
- 坂田琴紀 渡部仁翔
- 鈴木陽菜 宮脇梢
- 三生真禾 皆川想佑
- 長岡実咲 岡田有里子
- 田淵ゆうな 小池恵菜
- 野間瑛仁 松尾天
- 久保田侑 齋木翼
- 森原百音 高橋彩
- 浅川純令 坂本心華
- 伊藤旦松 河北麻友香
- 服部百華 峰凜汰郎
- 古川裕月 馬嶋梨咲
- 相澤美伶 松田茉莉佳
- 仁井谷咲 中村和花
- 田端あかり 鈴木颯太
- 井本樹希 森岡樹生
- 松本夏芽 富澤環太
- 西田向希 土田新之助
- 潮田莉菜 塚田くるみ
- 舟尾修一 佐藤壘
- 松本清太郎 西堀太政朗
- 山内理睦 徳島令士
- 夕ナカ沙弥郎 奥野莉央
- 土本莉子 椎原率
- 齋藤優美 北川悠真
- 青木洸志 並木漣音
- 橋本桜来 河野心咲
- 熊崎明衣 中倉木佑里
- 村谷悠太郎 辰巳郁斗
- 山内新太 石川結未羽
- 澤島柚 堤日々
- 橋場美枝 津金莉奈
- 穴迫楓 上松蓮
- 大嶋珀臣 加藤空
- 森松大 佐藤一華
- 佐々木玲風 宮脇梢
- 黒山浩平 黒山浩平
- 谷村友啓 橋山優太
- 小村結莉 大野光葵
- 野間瑛仁 大野希子
- 松尾天 木村心之輔
- 瀬和ゆつき 大川愛叶
- 久保田侑 倉島瑛太
- 齋木翼 近藤沙桜
- 森原百音 大塚陽之
- 高橋彩 菊嶋勇成
- 浅川純令 坂本心華
- 伊藤旦松 河北麻友香
- 服部百華 峰凜汰郎
- 古川裕月 馬嶋梨咲
- 相澤美伶 松田茉莉佳
- 仁井谷咲 中村和花
- 田端あかり 鈴木颯太
- 井本樹希 森岡樹生
- 松本夏芽 富澤環太
- 西田向希 土田新之助
- 潮田莉菜 塚田くるみ
- 舟尾修一 佐藤壘
- 松本清太郎 西堀太政朗
- 山内理睦 徳島令士
- 夕ナカ沙弥郎 奥野莉央
- 土本莉子 椎原率
- 齋藤優美 北川悠真
- 青木洸志 並木漣音
- 橋本桜来 河野心咲
- 熊崎明衣 中倉木佑里
- 村谷悠太郎 辰巳郁斗
- 山内新太 石川結未羽
- 澤島柚 堤日々
- 針金愛菜 岡本美実
- 松下暁 平田暖和
- 浅子晴紀 清水十彩
- 上総蘭 相川寧々
- 丸山蒼太 塚原椰羽
- 佐藤華瑠 秋田緒心
- 加藤一華 福永淳
- 塩川咲理 草野陸斗
- 並川あさな 續美誠
- 大沼莉帆 森薫那太
- 藤本玲音 佐久間陽子
- 久保田遥 山本藍右
- 大野光葵 濱中湊介
- 大野希子 田代龍輝
- 木村心之輔 井口琴葉
- 大川愛叶 岡野蒼
- 倉島瑛太 吉柄正晴
- 近藤沙桜 高島あかり
- 大塚陽之 須貝航
- 菊嶋勇成 小淵侖璃
- 佐藤大貴 八巻泰弥
- 佐藤大貴 徳旅人
- 平唯心 木本穂高
- 岩崎康平 山口竣
- 濱中良太 菊池真七翔
- 山本唯翔 片桐遥翔
- 仲村采音 木原悠仁
- 矢納啓修 伊藤碧海
- 植木麻文 高橋達希
- 村田悠真 門馬珠希
- 大和龍世 渡邊湮吏
- 武井咲菜莉 内田さち
- 川崎含なずな 水越大翔
- 寺澤航佑 田中星椰
- 三浦緋菜 山崎陽菜
- 松本樹 田中湊翔
- 石倉礼志 志水大翔
- 佐藤虎友葉 伊藤里桜
- 浦部結衣 早川紀代
- 本間光 岡村健永
- 小幡成那 吉田優月
- 星野楓月 増井美琴
- 三反畑圭 鈴木日菜
- 上島理人 池島一誠

### 七五三風景



- 西野舞香
- 池長佑真
- 池長秀悟
- 鳴海小晴
- 齋藤廉
- 田村琉
- 永原紗奈
- 漆松呂紗
- 松野斗良
- 内藤充軌
- 田弥依奈
- 宮澤ひな
- 谷口叶彩
- 渡辺悠月
- 愛須紬
- 秋山慶太
- 丸茂静嘉
- 神田和伽
- 田村史佳
- 重井陵吾
- 倉島瑞
- 住原悠介
- 本多侑和
- 加賀日奈子
- 中野千晴
- 平井濤
- 中山敬斗
- 棚田菜央
- 山本実和
- 藤田絵愛
- 藤田紗帆
- 平井遥
- 松井響己
- 渡部美和
- 日高瑛麻
- 藤原絃葉
- 志賀彩音
- 藤木瑛斗
- 落合柚太
- 石井稟桜
- 石井宏直
- 小田桃愛
- 藤井瑛介
- 倉元玲伊



## 祝 七五三詣

### 七五三年齢表

七歳 女児 平成26年生  
 五歳 男児 平成28年生  
 三歳 男・女児 平成30年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。  
 満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

### 七五三レンタルプランご予約

ご予約：毎日朝10時～夕方5時まで

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ成長した誇らしさ、可愛らしさで胸を一杯にすることでしよう。だからこそ、大切な記念日をご家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげましょう。

大宮八幡宮で全てを決め頂ける展示ご予約のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で実施致します。熟練のスタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせて頂きます。

皆様のご来会を心よりお待ちしております。

### 秋の大祭後の主な祭典行事

- 10月31日～11月23日 第42回杉並大宮菊花展
- 11月上旬 新年度神宮大麻頒布式並氏神社神符等奉戴式
- 11月15日 月次祭並七五三祝祭
- 11月23日 新嘗祭
- 12月12日 第30回杉並花笠祭り
- 12月31日 大祓(年越大祓)除夜祭
- 令和3年 歳旦祭
- 1月1日 小笠原流墓目ひきめの儀・大的式
- 1月2日 元始祭
- 1月3日 古札焼納祭(とんど焼)

# 大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月14日~15日



菊披綿



本庁幣・氏子幣参進



奉茶の儀



本庁幣奉献



献幣使祭詞奏上



氏子幣奉幣



氏子祈願詞奏上



朝日子の舞



宮司拝礼



祭礼委員長拝礼

大 宮 第118号  
 令和2年 秋の大祭号  
 令和2年9月1日発行

**大宮八幡宮社務所**

〒168-8570  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話 03(3311)0105  
 FAX 03(3318)6100  
 Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp



大宮幼稚園 第71回入園式